

Title	第二十九巻第一號正誤表
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1956
Jtitle	史学 Vol.29, No.2 (1956. 8) ,p.114(226)- 114(226)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19560800-0114">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19560800-0114</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

かりは思はれない。)又中には筋や内容は共に既に虎明本と略同じであるにも拘はらず、歌謠や囃子のみ全く違つてゐると云ふ例も尠くはない。これから考へれば、すくなくとも天正本に記載されてゐる例からすれば、歌謠類も未だ充分には固定せず、又或る場合には、時と場所に應じて歌謠のさし變へすら行へるだけの自由な状態もあつたのではないかと思はれるのである。(既に北川忠彦氏も指摘された「靉猿」に猿歌のない事にも問題はあらう。)

その他、狂言詞章の中には能詞章のそれと可成類似するものも意外に多いこと(約十番について云へる)、或は「きりをまふ」なども能と狂言との關係に更に新しい材料を提供するかも知れない。

又、「ゆ立」、「木こり歌」、「いとより」、「八房」など、これまでの諸本には見られない様な、民俗生活が素材として取り上げられてゐることも、これ迄手薄な狂言の地方的擴がりや、民俗との關聯等を考察する手懸りになるかも知れないし、これらと考へ合せてこそ始めて、「いぐい」(これは勿論諸本にも見られる。)などにみられる昔話的側面(聴き耳)や、現行曲に向いくつか含まれてゐる昔話との結びつきなども、左程無理なく理解することが出来るのではなからうか。さうして囃子などを「じゆもん」と稱へてゐること(「末ひろがり」・「たからかひ」)なども、民俗信仰と關聯するものとして注意されてよいであらう。

問題になる點はまだこれ以外にも澤山あるであらうが、以上氣のつくまゝに、比較的重要と思はれる個所に觸れてみた。この翻刻が一つの縁となつて、能狂言研究が地方との關聯に於て、——これまでの各方面よりの報告や研究を史的に整理して——更に廣い立場から一段と進展することを期待したい。

尙、拙文が印刷に廻つた後に、表氏「天正狂言本」について(「文學」・二四ノ七)が出た。そのうちの「近衛殿の申狀」などの諷刺に對する見解、その他二三の點に觸れたいが、又他日に譲る。(太田次男)

第二十九卷第一號正誤表

頁數	行數	誤	正
表紙	雜報	(脱落)	○カロザスに言及せる 或る福澤書翰について
二	5	原典に逆つた。	原典に逆つた。
六一	註 6	Sapolyo	Sapolyo
六八	1	のをとげて	をとげて
七〇	8	Fanz Baginger	Franz Babinger
七一	2	エドワール・ドゥリオー	エドゥアール・ドリオー